

教育所感

文學博士

元良勇次郎

▲幼稚園及び小學校尙廣くいへば、中學校の教育でも今から十五六年乃至廿年程前の教育の有様を考へて見ますと、學生に課する教科が度に過ぎるといふ苦情が、どこにもあつた。假令は幼稚園などにとやると、いろ／＼な事を教へる。従つて競争心を起させ、其がために、泣出す様な事がある。唯に、幼稚園のみならず、小學校でも、教師がむづかしい事をいふから、子供にはわからずなりに、先生の云ふ事を聞くといふ様になる。これは、日本のみならず、西洋にも、此弊があつた様に、思ひます。

子供は、自分等とは違ひますから、餘程やさしく云はないと、了解されない、むづかしい事をい

へば、却て、効果が少ないのです。

私も、其時分に、先生方が學生にむづかしい事を教へて居るのを見て、感じた事がありません。其後は、始終初等教育の事に注意して居た譯でもなし、他に仕事があつた者ですから、つい其内に十年も十數年も過ぎてしまひました。所がものは中庸を得るといふのが、むづかしい者で、此頃になつて見ると、子供に教ふる事が、却て、あまりやさし過ぎる様に、なりはせぬかと思ひます。其れは、いろ／＼の原因がある事で、第一に教授法といふ者が、教育者諸君の實驗上から、いろ／＼と進んで來たと思はれます、斯かる事は、誠に結構なことであるが、併よき事が進めば、之に伴なう弊害が起る者です。

私がお思ふに、此教授法が進んだ結果、學生が

骨を折る代りに、教師が骨を折るから、學生には、却つてやさしすぎはせぬかと、即ち、齒でかんで教ふるといふ形になりはせかぬかと思はれます。之を、食物に假令ふれば、胃も腸も大事な者であるけれど、胃に消化し易きものやわらかな者計で養ふて居れば、それになれてしまつて、今度は、少しでも、硬い者が入れれば、直様、其れがために、胃腸を損ふのと同じ様な事が、教育社會に行はれて居りはせぬかと思ひます。一方から申せば、子供を幼稚園にやつて、日々する事を聞いて見るに、此頃は、習ひ過ぎると云ふ様な恐れはない様に思ひます。小學校にても、先づ生が學校で覺えられるだけの事を教へ、家庭では復習しないでも、いと云ふ様になりましたから子供は自然、家では、遊んで計居るといふ様にな

る、遊ぶ事は、いゝが學生が骨を折らない爲に、學力が下つて、行きはせぬかと思ひます。これは、立派な中學や高等學校の先生方がいはるゝ事である。何が欠點であるかは、一概には云はれないが、あまり學生を優待する譯ではあるまいかと思ふのであります。不消化なものを、子供に食べさせては、いけぬといふても、齒でかめる者ならば、硬きものでも與へた方が、よかろうと考へます、これは、廣く觀察して、申したので、大勢の子供を一所に集めて教へる事は、よほど困難である、私の理想は社會精神を養ふ事は、一所にしてもよいが、教へる事は、個人々々にした方が、宜しからうと考へます子供々によつて、違ひますから併し大勢の子供を集めて、教育するといふ事は、種々の點か

ら避ける事は出来ないけれど、十七八年前に、教育者が論じた事に、學生には、餘計の事を課し過ぎると云ひましたが、今度は反對に他の極端に傾いて來たのではなからうか、實際仕事に當つて居る諸君のお説をうかひたいものです。

▲それから、兒童の教育といふ者は人生將來にどれ程の効果があるか、云ふ事に就て、お話を致します。

私は自分の経験にて、どの位の時の事を、記憶して居るかといふと、四才の時に出來た事は、きれ〜に覚えて居るけれど、續いて覚えて居る事は六才からです、精神生活の方面からいへば、六才以前にありては、いゝ事もわるい事も、全く覚ええない、之は、人によりて、違ふ様ですが、私は此様に思ひます、して見れば、六才前の事は、

將來人生上に、あまり、影響を、持たぬかと考ふれば、そういうわけにはゆかぬ。意識上からは、そうですが、吾々の精神作用の基礎は、身体の生理活動にありて、意識に残つて居らぬにしても、幼時に受けた印象が、將來迄残つて行く事はいろいろの點から、學者の證明する所です、殊に、吾々の記憶は、初めに覺えたもの程、ながく存するものであります。實際の事實について云へば、子供の時に學校へ行て、教育を受けるといへば、四書とか、五經とか云ふ者を、暗誦するといふのが、其當時の教育法でした。其後西洋の思想が入つて新教育法が行なはれる様になり、一時大學とか、中庸とか云ふ様な者は、つまらぬ者として、殆んど捨てられてしまひました。其れでどの事が、何の書に有つたか忘れてしまつたのです。其れから

何年かを經て、考へて見ると極子供の時分に、覺えた事は、忘れない、年が行く程、子供時代に、覺えた事が、非常に興味があつて、昔は譯もわからず暗誦した者が、今は、わかつて來ますから、子供時代の事が、益々興味がある様になつて來たといふ様な譯です。

そういふ様な事から、考へて見れば、人の習慣と云ふ者は其人の生涯の基礎をなす者です、西洋わたりの宗教家が其子供を教ふるのに、未だ何も、わからぬうちから、教會につれて行て、聖書を讀ませるとか、又暗誦させるとか云ふ事が、成長後其人大なる影響を及ぼすので、幼時に覺えた事は、非常に強い事であるから實際事實に矛盾して居ても兒童の時に、覺えた事が最後の勝利を得てしまふ事が幾等もあります、今のは、西洋の例へ

ですが、日本でも同し事で、子供の時に、習ひ込んだ事は、一時すてられても、成長するに従つて子供の時分に聞た事にかへつて來る様になる。漸く思ひ起して見れば、宗教といふ者は、道理を以て之を解くとか云ふ様な事よりは、子供に教へてむと云ふ事が、非常に強固なる基礎になる者です。

一体、ローマンカドリックと云ふ宗教の、傳道の仕方は、たしかに、効を奏するにちがひない。之に因て見れば、子供の時に、教へこむといふ事は、大切であるが、又他の方面からも考へて見なければならぬ、他の方面とは子供に教へる事は、何年たつても、如何なる場合にても、變らない様な極確かな事を教ふるのは、適當ですが、國民教育の點から云へば、或一派の人の信仰にかゝると

云ふ事は、子供に教ふべき法でないと思ひます、殊に、日本の宗教は、いろ／＼に分れて居ますから、成長後にさめるのは自由ですが、國民教育時代には、教ふべき者でなからうと思ひます。

其れで、六才以下の子供にはどういふ様に教ふべきかと云ふに、私は、其れに就て、細かな論をするのではないが、智識を與へる事は、其れ程必要でないかと思ふ。今申した様に、幼時の事は、其れ程には覺えない故に、唯秩序ある習慣をつけ、事が。最も必要な事と思ひます、此習慣は、智識としては、存しないが、其人の生涯の上に最も大なる影響を與へる者です。故に、兒童教育は凡て他の教育の基礎をつくる者であるけれど、尊ぶ所は、智識上に表はれた基礎でなく、習慣上に表はれた者であらうと思ひます。

▲教育家といふ者は、教育を職業とすべき者

である。しかも此教育家といふ者は、他の事業と違ひ、極樸素な仕事で、今日働いた事を明日見る事が出来ない、自分が施して居る、教育が、子供の上に、將來よき結果を、與へるといふ自信がなければならぬ、若し、其確信がなければ、眞の教育家たるの資格がない譯である。他の事でも同じ事であるが他の職業は、半年か一年の後どうも具合が悪いからといつて、かへる事が出来るけれど、此教育家のする仕事は、そういふわけには行かぬものである、故に信ずる所によつて行はねばならぬ。所が、其れと連絡して居るが、兒童研究といふ事が、西洋などでは、大に、人の注意を引いた事です、餘程前には、日本でも、人の注意をひきました、其後兒童研究に對して、反對の論が

出た様です、其論は、教師が大切なる子供を扱ふのは、重任である、然るに、子供を材料に使つて子供を研究するといふのは、悪い事であるとの論が、亞米利加あたりで云ふた事であります。

其れから、にわかと云ふ譯でもありませんが、児童研究に對する人々の熱心が、衰へたかと思はれます。然し、児童研究といふ事は、矢張り或學者は益々續けて、やつて居ると云ふ様な次第で、日本に於ても、大部世間の注意を引きましたが、或人には斯る議論が、影響したかと思はれます、一時は教育者も自から研究したいと思つた者もありましたが、やつて見ると随分面倒な割合に効が表はれないと云ふ事で、其等の事も、児童研究の熱心をさましたと云ふ事であらうと思ひます。然し、之は誠に残念な事です、私も研究したい

のですが、時間がありませんから、自分では、研究しません、然し常に大切の事とは感じて居ます。斯る事は、研究の方法に就ての論であつて、醫者は病理について、研究するから、病を癒す事が出来る、場合によりては生きながらの解剖をしたります、誠に残酷ではあるが學理を研究して應用せんとするので、つまり醫者は、病を癒す目的である衛生家は、生活を完全にするのが目的故其道理を研究する、斯る一般の理屈から考へれば児童を教育するには、児童研究が必要である。

私の希望は、どうか實際児童教育の研究をなしてお出になる諸君の中に、一般の心理學の研究をなし、又生理學の基礎の上からも、児童の心身の發達を研究される事が、今少し振入事を切に望む所です。

斯の如き次第ですから、身体が健全なれば、醫者は、用はないと思ふけれど、病の時には、醫者の治療を受けなければならぬ、其れがためには衛生家も必要である、之と同じ事で、兒前もよい兒ばかりならば研究もいらぬが、多くの中には癖のある者もある、之を癒して行くには、平生に研究して置く事が必要であります。

前にもお話しした様に、人を教育するには、充分の愛情をもつて行かねばならぬ、子供に材料にするといふ弊がある故に、妄りに好奇心半分に、子供を材料に使う事は、本より反對すべき事であるが、其れは、研究者の良心に訴へ可きもので、若し眞面目にやるならば、教育の目的たる愛情を以てするのと矛盾せぬ事と思ひます、若し、そのいふ方面に、趣味を有する人が、研究なされば、吾

々億かの者の幸福なるのみならず、教育社會全体の幸福だらうと思ひます。

●子供と距離の看念

小兒が初めて物を見るにはその近きものから始めてだん／＼遠き物に至るものである。されど其距離と云ふことは殆んど考へてない。或觀察者の云ふには殆んど一才の小兒か庭に立ちて二階の人に物を手渡せんとした。と云ふ。距離は小兒の運動が盛んにならなければ了解することの出来ないものである。

